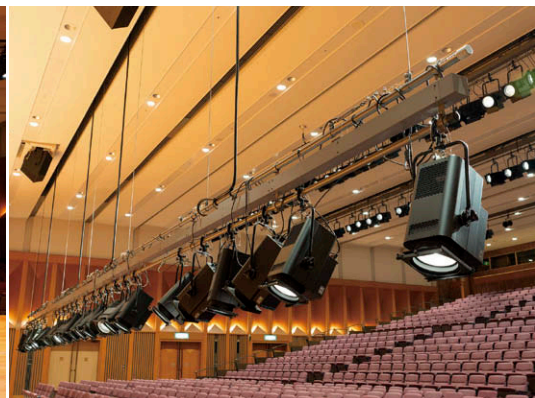


京都テルサのテルサホールは、1996年4月に竣工。それまで烏丸丸太町に位置していた京都府立勤労会館大ホールの後継施設として設計されました。劇場に特化した勤労会館大ホールに対し、客席や舞台の格納が可能な多目的ホールとして設計され、演劇、コンサート、映画、研修、面接、展示会など、多種多様な催事を高いレベルで提供できる多目的ホールとして活用されています。



【物件概要】

所在地：京都府京都市南区東九条下殿田町70  
 ホール面積：555㎡(客席収納時)  
 座席数：最大856席  
 施主：京都府  
 設計：(株)建設計  
 施工：建築/清瀬産業(株)  
 照明リニューアル：2023年2月



ステージから客席を望む (左) 昼白色の壁面間接照明TENQOOシリーズ⑤100%点灯時。  
 (右) LEDスポットライト⑥⑦および壁面間接照明のDC LED電球④を点灯。

客席ライトボタン(降下時)  
 DMXノードからの出力で制御するよう改造し、LEDスポットライト⑥⑦を配置。

囲気が創れます。

テルサホールの場合には劇場用途以外の催し物で客席照明をフル点灯するケースも多いので、ハロゲン器具のように雰囲気のある調光ができて、かつ熱も出さず、消費電力を抑えられるLEDへの更新はメリットが大きいと以前から考えていました。

将来性を見据えて既設設備の使い勝手を進化させた操作環境。

一舞台照明や操作環境については、どのような更新が行われましたか？

安田 先にも触れましたが、完全なフルLED化はせずに、電源を差すだけで簡単に使えるという環境も残して更新しています。具体的には、客席天井の4本のライトボタンについては、ワイヤーを交換したうえで、DMXノードに対応できるよう改造しながらも、既設電源のうち3回路を直電源とし、他は調光回路として残しています。ステージの前あかりとなるスポットライトは、従来のハロゲン器具からLEDスポットライトに更新しました。客席の天井が低いので、発熱という点でもよい環境になったと思います。調光操作卓や舞台袖操作器も、従来の環境を踏襲しな

がら更新するかたちになっています。調光操作卓のLICSTAR-IVは、各地のいろいろな現場で舞台やバレエなどの照明を手掛けている若い照明オペレーターたちが、声を揃えて「使いやすい」と言っています。自分でも実際に使ってみたところ、実戦的で非常に使いやすいと感じています。

一本日はお忙しい中、貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございました。

(2023年5月19日 取材)



調光操作卓③



舞台袖操作器⑨



LEDスポットライト⑥

主な掲載器具一覧					
設置場所	器具名 (品種名)	形名	台数	備考	
ホール	① LEDシアターシリーズダウンライト(開口径目安Φ200mm)	AL-LED-TDL-L	75	消費電力：91.5W	
	② LEDシアターシリーズダウンライト(開口径目安Φ200mm)	AL-LED-TDL-LS	7	消費電力：91.5W	
	③ LED一体形ダウンライト(開口径目安Φ200mm) 昼白色	LEDD-95021FN-LD9	49	消費電力：71.4W(100V)	
	④ LEDシアターシリーズ電球システム DC LED電球(一般電球形クリヤータイプ)	LDADC15LHE26C/D-AL	44	消費電力：14.7W	
	⑤ LEDベースライトTENQOOシリーズ 40タイプ 直付形 W70 調光 昼白色	LEKT407253N-LD9	44	消費電力：17.1W(100V)	
	⑥ LEDスポットライト 8型平凸 (ハロゲン1~1.5kW相当)	AL-LED-ASP8-L-LA	67	消費電力：187W	
	⑦ LEDスポットライト 8型シアターフレネル (ハロゲン1~1.5kW相当)	AL-LED-FSPT8-L	66	消費電力：187W	
調光室	⑧ 調光操作卓	LICSTAR-IV TypeJ	1式	—	
舞台袖	⑨ 舞台袖操作器	特注	1式	—	
調光盤室	調光器盤	PLUG-IN DIMSTAR III	1式	—	